

北海道の観光地といった皆様ご存じの『小樽』。北海道の要所として古くから栄え、現在も小樽運河や倉庫群などたくさんの観光客で賑わっております。明治時代から1世紀以上もの間、日本海の荒波からこの街を守り続けてきたのが、今回ご紹介する『小樽港防波堤施設』です。

港湾工学の父といわれる廣井勇氏が、セイロン(スリランカ)のコロンボ港防波堤を参考に建設を始めました。火山灰を配合した強度コンクリートブロックを、斜めに積み重ねる独自の工法で、北防波堤・島防波堤・南防波堤、3つの防波堤が一直線に設置され、総延長距離は約3.5km。日本初の長大な港防波堤として当時のままの状態で現在も機能しており、今年1月15日に国の重要文化財として新たに指定されたそうです。

今回伺うことができませんでしたが、小樽市総合博物館運河館にてトピック展『小樽港防波堤施設-港を築く、港を守る』が3月29日まで開催されております。ご興味のある方は訪問されてみては如何でしょうか。

札幌営業所(所長:清水 壮次郎)



世界の拠点から
- From the base in the world -



2026年2月12日～14日までの3日間、コーヨーラドセールス株式会社として国際オートアフターマーケットEXPO2026に出展いたしました。本展示会は、自動車アフターマーケット業界における最新製品・技術・サービスが一堂に会する専門展示会です。全国から多くの業界関係者が来場され、当社ブースにもたくさんの方にお立ち寄りいただきました。お忙しい中お越しいただいた皆さま、誠にありがとうございました。

当社ブースでは、ラジエーターをはじめとする熱交換器製品をご紹介いたしました。『安定供給体制』や『品質への取り組み』について特に高い関心をいただき、改めて当社が担う役割と責任を実感する機会となりました。

展示会は単なる製品紹介の場ではなく、お客様との新たなご縁が生まれる大切な機会だと考えております。これからも品質・供給・対応力を磨き続け、皆様の事業発展に貢献できるパートナーを目指してまいりますので、引き続きご支援・ご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。



西日本営業所(部長:木下 敦裕)

皆様いかががお過ごしでしょうか。今回は雑司ヶ谷鬼子母神堂を紹介いたします。

鬼子母神堂は、池袋駅から明治通りを南へ進んで少し入ったところにあります。池袋駅周辺・明治通り沿いの賑やかさや喧騒からは離れた場所です。

鬼子母神は法華経に出てくる仏教の安産・子育ての守護神で、日蓮宗寺院で祀られていることが多いです。雑司ヶ谷の鬼子母神は、1578年に法明寺の一角にお堂が建立され祀られました。この鬼子母神堂は、1923年の関東大震災、1945年の第二次世界大戦を免れ、1960年に東京都有形文化財の指定を受けました。

境内に入ると、豊島区景観重要樹木の第1号にも指定されている、ご神木として慕われてきた推定樹齢700年の大イチョウが目に入ります(立派なイチョウです…)。境内に大黒堂というお団子屋さんがあり、休憩しながらお団子・お茶をいただくこともできます。また、子供たちが喜びそうな駄菓子屋さんもあり、参拝者や地元の子供たちで賑わっていました(少し懐かしい感じがしました…)。

駅からも近い場所なので、訪れてみてはいかがでしょうか。

東日本営業本部(部長:高橋 鉄夫)

名古屋に戻りましてまもなく1年。時が経つのが早く感じます。今は名古屋市港区茶屋の近くに住んでいますが、ここは私が名古屋にいた24年前には目立った商業施設は殆どなく、田畑が多い地区でした。しかし最近は様々な施設ができており、住環境がすこぶる良くなってきています。

その起点となったのがイオンモール名古屋茶屋。名古屋市内ではトップクラスの大きさのイオンモールで、その近隣にはカーディーラーや大型クルマ買取店などが3社あり。飲食店やドラッグストアなども次々と建ち、便利です。

イオン茶屋のナナメ向かいには、駐車場が両方とも広いので離れている様に見えますが、スーパーセンタートライアルがあります。更に1月末、イオン駐車場の向かいにロピアがオープン。関西在住時もロピアとイオンを使っていましたが、名古屋も非常に近くにできて便利になりました。競合で販売側は大変かもしれませんが、我々消費者は色々なおかずや商品が選べて嬉しいですね。

中日本営業所(部長:藤谷 弘行)

先日からラマダンの断食が始まりました。ご存じのように、断食の時は何も食べたり飲んだりしてはいけません。朝の大体4時半から夕方18時まで約13時間半行います。もちろんお腹が空いて、喉も乾きます。ただお腹が空くほうか喉が乾くほうか、どっちが大変かというやっばり喉が乾くほうが厳しいです。

断食は年1回で29日または30日ぐらい続けます。通常のカレンダーではなくイスラム教のカレンダーに基づいて1年を決めているので、通常よりも約11日短くなっています。そのため、今年の断食は去年より11日早く始まります。

現在、インドネシアの気候は雨がが多いのであまり暑く感じず、喉がそんなに乾かなくて過ごしやすいです。何年か前の断食の始まりはちょうど夏、つまり8月前半辺りになったことがあってとても苦しかったです。

断食明けの30日が経つまでまだ3週間ぐらいあります。もしも何日かどんな理由でも断食できない日があるなら別の日にやり直さなければなりません。一人だけよりみんなと一緒に断食したほうがやりやすいので、できるだけラマダン中に失敗しないようにみんなと何とか頑張って行きます。

KJI(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

～1,300kmでも日帰り～

最高速度は350km/h。中国では今や高速鉄道、『高鐵』に乗って全国各地でも行くことができます。お客様訪問や仕入れ先訪問での出張では高铁を使うことがほとんどです。北京のような遠方なら以前は夜行列車をよく使いました。ビールとおつまみを買って、21時ごろ出発。寝台個室で気持ちよく飲みながら、翌朝目覚めると北京駅。そんな旅情あふれる出張も今は昔。北京までなら4時間半。1,300kmでも日帰りができちゃいます。

高铁は日本の新幹線とよく似ていますが、日本と違い、駅への入場は必ず空港並みの荷物検査を通ります。チケットは実名式で乗車時は身分証チェックが必要です。なので、時間ギリギリで自由席を買って飛び乗る、というわけにはいきません。4時間を超える乗車も珍しくありませんが、そんなときは高铁アプリで弁当を頼めば、席まで届けてもらえます。また、各車両には必ず給湯器がついており、カップ麺を食べる人も少なくありません。食事時には車両内にカップ麺の匂いが…というのも中国風の旅文化ですが慣れてしまえば、大して気にはなりません。

そして何より日本と異なるのはその値段です。上海から北京までの約1,300kmが日本円だと13,000円程度で行けてしまいます。かなりお得です。

KHE(中国・蘇州)(総経理: 山本 博史)

～アメリカでの運転免許事情～

皆さん、こんにちは。今月は少しプライベートなお話をシェアさせていただきます。

先日、16歳の息子がアメリカで運転免許を取得しました。日本では18歳になると、約30～40万円をかけて2～3か月教習所に通い、最後は100問中90問以上正解しなければ合格できないという、なかなかハードな道のりですよ。しっかり学び、しっかり練習し、しっかり試験を受ける。まさに『万全体制』の日本スタイルです。

一方、こちらカリフォルニア州では、15歳半で筆記テストを受け、50問中15問までミスOKで仮免許が取得できます。実技教習は\$500～\$700ほどで、受講回数はたったの6回。そして16歳になると10回までのミスは許容される約15分の実技試験を受け、合格すれば正式な免許取得となります。

こうして比べてみると、「あれ、意外と簡単?」と思われるかもしれませんが、でも実は、本当に緊張するのはその『間』の期間です。

日本のように教習所でじっくり路上練習をするのではなく、実際の運転練習は親が助手席に同乗して一般道路を走ります。もちろん高速道路も走ります。私は毎回、冷や汗をかきながら助手席に座っていました(笑)。無事に免許を取得できてホッとした反面、これから一人で運転するのかもしれないと思うと、また違う不安も出てきます。成長を嬉しく思う気持ちと、少し寂しいような気持ち。親としては複雑ですね。

安全を制度でしっかり整える日本、早い段階から実践と自己責任で育てるアメリカ。どちらが良いというよりも、その国らしさが表れているように感じます。子どもの成長を通して、文化の違いまで学ばせてもらった、そんな出来事でした。

KCS(アメリカ)(GM:Ayano Donnelly)

人々が広く受け入れられている絵を世界共通言語として使い、見た瞬間に理解できるものにするのは周知の事実です。中には、何かユニークなものを作ろうと即興で異なる絵を媒体として使う人もいます。

男性用と女性用トイレを識別するための最もシンプルで広く知られているものは、男性と女性の絵を使うことです。先日、あるカフェに行ったのですが、正しいトイレの場所を特定するのに数秒かかりました。このカフェは、男性用には帽子をかぶった犬の絵を使い、女性用にはリボン付きの帽子をかぶった犬の絵を使って明確に違いをつけていました。常識的に考えれば、違いを見分けるのは難しくないはずですが、この絵のパズルを解くには、まず考える必要がありました。

創造性は素晴らしいですが、シンプルでありながら目的を達成できれば、さらに良いでしょう。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

先日、ちょっと外出し気分転換するため、家族や友人と何度か外食に行きました。私たちは定期的に外食するわけではないので、もし出かけるなら存分に楽しみたいのですが、近年の変化からその喜びが失われつつあるように感じます。

ここ数年、食べ物や飲み物の値段が急激に高騰し、外食すると非常に高くつくようになりました。つい最近までは簡単な夕食だと20～30€(ユーロ)、飲み物は2～3€で注文できたので、1人あたり30～40€ほどでした。今では安くても40€、簡単なものでも60€ほど、もう少し良い料理や場所を求めると1人あたり80€以上かかります。さらに、飲み物に4～8€は必要になります。夜遅くになり会計を頼むときは少し緊張してしまい、せつかくの喜びやリラックスした雰囲気が台無しになってしまいます。

残念ながら、賃金は物価の上昇率と同じ割合で上がっていないため、夜出かけるためにはお金を貯める必要があります。もちろんこれは贅沢ですが、物価上昇によって経済的に苦しい人が増えています。物価上昇に加え、あらゆるサービスも低下しています。顧客に快適な体験を提供することよりも、できるだけ多くのお金を支払わせようとしているように感じます。

1週間一生懸命働いた後、時にはリラックスして自分にご褒美をあげ、また頑張れるようにしたいものです。悲しいことに、プレッシャーを和らげることがますます難しくなっており、外出して人生を楽しむ価値がなくなっているように感じます…。

KIO(オランダ)(Ferri Visser)